

2019年3月28日

報道発表

京都大学イノベーションキャピタル株式会社
大日本住友製薬株式会社

大日本住友製薬からのカーブアウトベンチャー企業である AlphaNavi Pharma 株式会社の設立および投資について

京都大学イノベーションキャピタル株式会社(以下「京都 iCAP」、本社:京都市左京区、代表取締役:室田 浩司)と大日本住友製薬株式会社(以下「大日本住友製薬」、本社:大阪市中央区、代表取締役社長:野村 博)はこのたび、大日本住友製薬からのカーブアウトベンチャー企業である AlphaNavi Pharma 株式会社(以下「AlphaNavi」、本社:京都市左京区、代表取締役:小山田 義博)が設立され、第三者割当増資を実施したことをお知らせします。

AlphaNavi が実施した総額約 9 億円のラウンド A 第三者割当増資には、投資家連合として京都 iCAP、新生キャピタルパートナーズ株式会社、SMBC ベンチャーキャピタル株式会社、日本ベンチャーキャピタル株式会社、中信ベンチャーキャピタル株式会社、大日本住友製薬が参加しています。

AlphaNavi は、大日本住友製薬の従業員 2 名が京都 iCAP の支援を受けて 2019 年 1 月に設立した、大日本住友製薬からカーブアウトしたベンチャー企業です。大日本住友製薬は、自社で創製し神経障害性疼痛を対象に開発中の DSP-2230(開発コード)について、外部との連携を通じて、遺伝変異に伴う神経障害性疼痛疾患などを対象にした研究開発を推進することを目的として、カーブアウトすることとしました。AlphaNavi は大日本住友製薬から DSP-2230 の製造・開発・販売権のライセンスを受けており、DSP-2230 を小児四肢疼痛発作症などの治療薬として実用化することを目指します。

小児四肢疼痛発作症はアンメット・メディカル・ニーズの高い希少疾患です。京都大学医学研究科の小泉昭夫名誉教授らと秋田大学医学系研究科の高橋勉教授らの研究グループは、乳幼児期から周期性を伴い寒さや疲労によって誘発され疼痛発作をおこす特徴的な症状を持つ日本人家系を発見し、その症状を小児四肢疼痛発作症と命名しました。また、この疼痛の発作原因が、電位依存性ナトリウムチャンネルである SCN11A 遺伝子(Nav1.9)の一塩基変異によるものであること、この変異が末梢神経に局在する当該チャンネルの異常興奮を引き起こし疼痛の発症につながることを明らかにしています。

今後、AlphaNavi は、小泉名誉教授と DSP-2230 の非臨床試験に関する共同研究契約の締結を予定しており、小児四肢疼痛発作症などのアンメット・メディカル・ニーズの高い疾患に対する DSP-2230 の効果や特徴をより明確にし、臨床開発を推進します。

京都 iCAP は、既存薬では効果が不十分な疼痛患者さんに一日でも早く新規治療薬を届けたいという AlphaNavi の経営理念と同社のパイプラインのポテンシャルを高く評価し、同社設立前からカーブアウト実施などの事業開発を含めた支援を行いました。大日本住友製薬は、DSP-2230 のカーブアウトや AlphaNavi を中心としたアカデミアとの産学連携のオープンイノベーションが新たな開発戦略に基づいた DSP-2230 の研究開発促進につながり、アンメット・メディカル・ニーズの高い疾患の治療に貢献できることを期待しています。

AlphaNavi の科学技術顧問である小泉名誉教授は、次のように述べています。「小児四肢疼痛発作症は、主に幼児期から思春期に発現し、その強い痛みのため QOL を著しく損ないます。学校や幼稚園など教育関係者のこの疾患に対する理解が十分でないことが多く、患者さんおよびご家族は就学に大きな困難を抱えている可能性があります。AlphaNavi の活動を通じて新たな患者さんの特定が進められることを期待します」

小泉名誉教授の共同研究パートナーである高橋教授は、次のように述べています。「既存の疼痛薬では効果のない小児四肢疼痛発作症の原因が解明された今、原因遺伝子の機能を阻害する治療薬の実用化が、最も期待できる治療法開発と考えられます」

AlphaNavi の小山田代表取締役は、次のように述べています。「近年、電位依存性ナトリウムチャンネルの変異により疼痛が引き起こされることが世界的に明らかとなっています。DSP-2230 は、その変異により生じた異常な神経興奮を抑制することにより痛みを軽減することが期待されます。AlphaNavi は患者さんとそのご家族を中心とした産官学の連携により、DSP-2230 の開発を迅速かつ効率的に進めたいと考えています」

【AlphaNavi Pharma 株式会社の概要】

- | | |
|-----------|--|
| (1) 設立日 | : 2019 年 1 月 |
| (2) 本社所在地 | : 京都市左京区吉田本町 36 番地 1 (京都大学国際科学イノベーション棟内) |
| (3) 代表取締役 | : 小山田 義博 |
| (4) 大阪事務所 | : 大阪府吹田市江の木町 33-94 (大日本住友製薬 総合研究所内) |
| (5) 事業内容 | : DSP-2230 など選択的な電位依存性ナトリウムチャンネル阻害剤の研究開発 |

(ご参考)

【カーブアウトについて】

カーブアウトとは、企業が事業の一部を切り出し、その事業を社外事業の 1 つとして外部資本を組み合わせた上で独立させることで、独立した事業を新たにベンチャー企業として設立することをいいます。

【DSP-2230 について】

DSP-2230 は、大日本住友製薬が創製した新規のメカニズムを有する選択的な電位依存性ナトリウムチャンネル阻害剤です。神経障害性疼痛モデルを用いた非臨床試験において、優れた鎮痛効果を示すとともに、既存薬で問題となっている中枢神経や心臓系の副作用を起こさないことが明らかになっており、ヒトにおいても安全性の高い新規疼痛治療薬となることが期待されています。本剤は、神経障害性疼痛を対象に開発されており、米国・英国・日本においてフェーズ 1 試験が終了しています。

【小児四肢疼痛発作症について】

小児四肢疼痛発作症は、寒さや疲労によって誘発される乳幼児の手足の疼痛発作のことであり、痛みの発作は「SCNA11A」という遺伝子の変異によるものであることが解明されています。詳細は、以下の京都大学の発表をご参照ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/research_results/2016/160527_1.html

【京都大学イノベーションキャピタル株式会社(京都 iCAP)について】

京都 iCAP は、京都大学から生まれた研究成果を活用した企業を対象に投資やその他の事業支援を行うことを目的とし、2014 年 12 月に京都大学の 100%出資子会社として設立されました。2016 年 1 月には京都大学と民間企業からの出資を受け、同社を無限責任組合員とする 160 億円の KYOTO-iCAP1 号ファンドを組成しました。同ファンドの満期は最長 20 年間に設定しており、基礎研究に強みを持つ京都大学の研究成果の実用化を長期にわたって支援することが可能となっています。また、起業に興味を持つ方々を対象とした会員組織である「ECC-iCAP」を運営しており、スタートアップ企業の経営者候補の発掘にも力を入れています。

【大日本住友製薬株式会社について】

大日本住友製薬は、人々の健康で豊かな生活のために、研究開発を基盤とした新たな価値の創造により、広く社会に貢献することを企業理念としています。当社は、この理念を実現するため、また、日本はもちろん世界の方々に革新的で有用な医薬品をお届けするため、新薬の研究開発に全力を注いでいます。当社は、アンメット・メディカル・ニーズの高い精神神経領域、がん領域および再生・細胞医薬分野を研究重点領域とし、革新的な医薬品の創製を目指しています。

○本件に関するお問い合わせ先

・京都大学イノベーションキャピタル株式会社 事業企画部長(広報担当) 河野修己

TEL:075-753-5303 FAX:075-753-7592 E-mail:info@kyoto-unicap.co.jp

・大日本住友製薬株式会社 コーポレートガバナンス部 広報・IR グループ

(大阪) TEL 06-6203-1407/(東京) TEL 03-5159-3300